



人数ゆえに丁寧に指導してくださり、楽しい授業でした。他には、2年に1度の開講ですが、学際基礎科目の「キリスト教と芸術・音楽史」も面白く、大好きでした。

### ● 基礎的な学びを経て、深い理解に至る

**上山** 印象的だったのは、神学の基礎を学ぶ神学通論です。ぼくは神代先生の授業で受けましたが、神代先生はどちらかといえば飄々とした方で、静かに淡々と語られるのですが、聖礼典の話になったとき、一転してかなり熱く話されたことがあります。ふだんクールな先生の、内に秘めた情熱に触れたように思いました。

**箕口** 英語はもちろんギリシャ語、ヒブル語、ドイツ語など語学に加えて、教会史など暗記や反復学習が必要な科目に多くの人が苦勞するのは事実。でも！そこでがんばると、もっと面白いこと、深いことに手が届くという実感があります。大学院ではほとんどの授業が少人数のゼミ形式。課題本を読んでディスカッションするのですが、学部での苦しい学びが基礎となって、さまざまなことがダイナミックにつながって見えてきます。だからこそ白熱の議論ができますし、自然と頭にも入ってきます。楽しいですよ。

### ● 祈られ、支えられるから力が出る

—東神大に入って「自分が変わった」と思うことはありますか？

**箕口** よくも悪くも、がんばりすぎなくなりました。以前は体に無理をさせてでも、やるべきことを完璧に終えないと眠れないタイプでした。でも、長く伝道



### 箕口 窓香

(みぐち まどか)

— 大学院2年 —

【献身まで】1979年生まれ。大学を卒業後、3年間YMCAの英語学校に勤務。まっすぐにキリストに信頼して生きている同僚に導かれ、信仰を与えられる。もともと大学院に進学する希望を持っていたが、受洗と同時に召命を受け、同じ学ぶのなら教会に仕えるための神学を学ぼうと、3年次に編入。

者として勤めようと思ったら体は大切だな、と思うように……。今は変な無理をしないで、神さまを信頼し、委ねることを日々思い知らされています。

**富山** 私は逆です(笑)。面倒くさがりやなのですが、「がんばろう！」と思うようになりました。というのは、神学生は常に祈られているからです。出身教会から、奉仕教会から、家族から、寮では友人から、授業では先生から……。知り合いだけでなく、見ず知らずの多くの方々も「東神大のために」と祈ってくださる。そう思うと怠惰ではいられません。牧師の言葉には責任が伴うものですから、しっかり勉強しないと。

### ● 御言葉が語れなくなった！

**上山** 変わったことは……聖書に聴けなくなった。祈れなくなった。

一同 ……！！

**上山** 以前は、どこか「自分は聖書に聴けるし、御言葉も語れる」という自負がありました。授業でも、効率的よくパパッとこなすことは得意でしたし。でも、夏期伝道実習で説教の準備をしていたとき、聖書を開いても文字を読むだけで、心に入ってこない。どうやって御言葉を語るのかもわからない。かといって、それを求める祈りもできないという状況を経験しました。

**富山** どうやって乗り越えたんですか？

